

オオタバコガ情報第1号（ダイズ・キャベツ・キク）

令和3年8月3日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

ほ場での発生状況に注意し、発生を確認したら防除しましょう！

1 発生生態

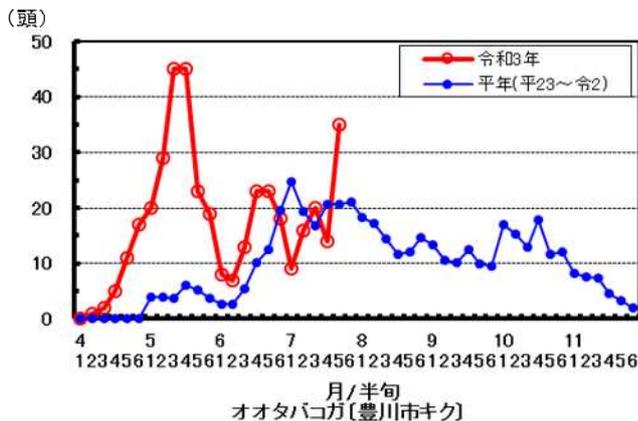
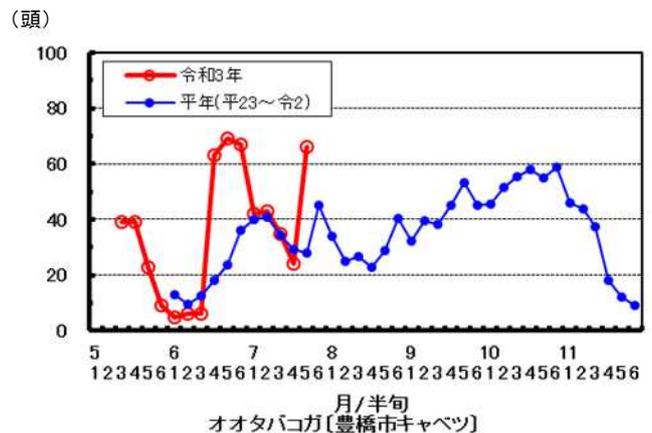
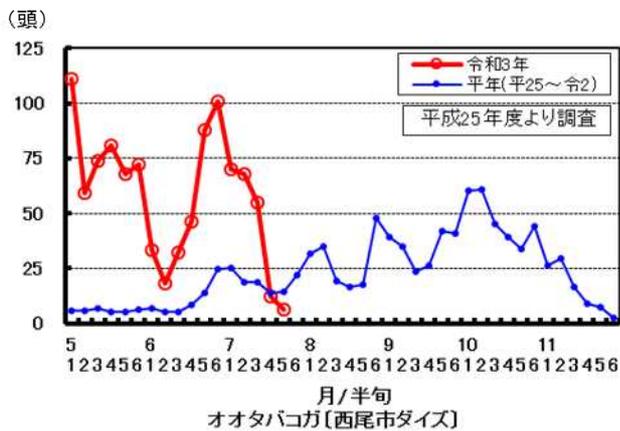
本種は1卵ずつ葉裏等に産卵するので、幼虫期に集団で食害することはありません。若齢幼虫期には展開中の新葉や花のつぼみに潜り込むことが多く、中齢幼虫期以降は莢や果実の内部、茎の中や結球の内部へ移動します。終齢幼虫は土に浅く潜って蛹化します。

本種の寄主範囲は極めて広く、ダイズ、キャベツ、キク以外にもトマト、ナス、キュウリ、イチゴなどの野菜類、バラ、カーネーションなどの花き類で被害が記録されています。農作物への被害は、7～10月に最も多くなります。

2 発生状況

7月下旬に県内7地点14か所のキクほ場で行った巡回調査の結果、本虫の寄生茎率は0.57%（平成28年～令和2年平均0.06%、前年0.00%）で過去5年と比較して最も高い状況でした。

フェロモントラップにおける本種の誘殺数は、5月から多い状況が続いている地域があります。西尾市のダイズ栽培地域では、5月から7月上旬にかけて誘殺数が多く推移しました。豊橋市のキャベツ栽培地域と豊川市のキク栽培地域では、7月第5半旬に誘殺数が急増しました。（図1）。



3 今後の予測

7月29日名古屋地方気象台発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並と見込まれています。本種の増殖に適する天候が予想されるため、発生量が増加する可能性があります。

4 本種による被害と防除対策

ダイズでの本種の被害は、ハスモンヨトウのように幼虫が集団で葉を食害せず、白変葉にならないため、ほ場外からの観察で発生を確認することは困難です。また、直接、莢を加害する（図2）ことから、被害が大きくなります。ダイズにおいては新葉が盛んに展開する開花期までの防除が重要です。播種時期が遅い作型については、開花期までに成虫の発生ピークと重なると被害が大きくなりますので、特に注意が必要です。

茎、花蕾、果実及びキャベツ等の結球部に食入した幼虫や、発育が進んだ幼虫には薬剤の効果が著しく低下するため、若齢幼虫のうちに薬剤防除を徹底しましょう。

キクでは着蕾後に加害を受けると商品価値が著しく低下するため、着蕾以降は特に注意しましょう。

被害部位の残渣は、卵や幼虫が付着している可能性があるため、放置せず適切に処分しましょう。

表を参考に、発生を確認したら防除しましょう。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同じIRACコードの薬剤は連用しないようにしましょう。

表 オオタバコガに対する主な防除薬剤

作物名	農薬名	使用時期	使用回数	IRACコード
だいず	アタブロン乳剤	収穫14日前まで	2回以内	15
	プレバソフロアブル5	収穫7日前まで	2回以内	28
	プレオフロアブル	収穫7日前まで	2回以内	UN
キャベツ	プレオフロアブル	収穫7日前まで	2回以内	UN
	アクセルフロアブル	収穫前日まで	3回以内	22B
	ディアナSC	収穫前日まで	2回以内	5
きく	カウンター乳剤	発生初期	5回以内	15
	オルトラン水和剤	発生初期	5回以内	1B
	ブロフレアSC	発生初期	3回以内	30
花き類・観葉植物	ヨーバルフロアブル	発生初期	3回以内	28

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRACコードの詳細は、https://www.jcpa.or.jp/labo/pdf/2020/mechanism_irac02.pdfを参照する。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。



図2 ダイズの莢を食害する老齢幼虫



図3 キクの花蕾を加害するオオタバコガ幼虫